

特定非営利活動法人アサザ基金  
第 14 期（2012 年度）事業計画

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

## 第 14 期（2012 年度）事業計画

### —目 次—

湖の再生事業	3-4
環境教育事業	4-6
水源地保全事業	6-9
地域循環型社会構築に関わる事業	9-10
複数の事業にかかわる助成	10-11
その他の事業	11-12
第 14 期事業年度会計収支予算書	

# アサザプロジェクト第14期事業計画

2012年度は牛久市南の新事務所を拠点にスタートします。霞ヶ浦は放射能汚染という今までに経験したことのない大問題に直面しています。今年度も56の流入河川を中心にモニタリングを継続し、行政や市民団体等に協力を要請しながら新しい公共の理念に基づく新体制を構築していきたいと考えています。また、新規事業として環境保全を組み込んだ企業との協働による醤油作りを土浦市の老舗醤油店の協力を得て始めます。また、2011年のNPO法改正に伴い、認定NPO法人資格取得にむけて申請手続きを進める予定です。ヒシクイ保護基金から引き継いだ「オオヒシクイ米の販売」をアサザ基金の収益事業として秋から本格的に稼働します。今年度もご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## ● 湖の再生事業

霞ヶ浦での自然再生事業は、従来の公共事業の発想を根本的に転換する意味で重要な位置づけにあります。それは、既存のシステムや構造に依存する側からの強力な抵抗を覚悟しなければ取り組めません。新たな発想で湖の再生を実現していくことがアサザプロジェクトには望まれます。アサザ基金では、流域に展開し続ける市民型公共事業の起点として、市民参加による霞ヶ浦の植生帯再生と生物多様性の保全、住民と霞ヶ浦の絆の再生、小学校での環境教育、政策提言などを行います。

### ○ 植生帯復元地区への水性植物の植付

植生帯復元事業として、霞ヶ浦・北浦に造成された11ヶ所の浅瀬や他の再生地を利用し、植生帯再生を目指して、アサザ、ヨシ、マコモ等の植付けを行います。また、これと連携して「アサザの植付」を里親、学校や企業ボランティアにご協力いただいて実施します。弊基金主催の「アサザの植付会」や「アサザのお花見会」は、一般市民、里親の参加を促すため公募で実施します。

上記の植生帯再生活動にはNFD one leaf fund（日本フラワーデザイナー協会）の助成金等をあてて実施していく予定です。

### ○ アサザの系統保存と里親

アサザの系統保存など植物の保存育成場所である学校ビオトープや流域各地のアサザステーション等の環境維持を行います。

アサザの里親活動は、学校や団体向けの系統保存株の株分けを中心に進めます。株の配布は、1) 学校等の団体、2) 流域住民、3) 既に苗を戻したことがある里親かつ会員であること、4) 里親誓約書を取り交わした団体、個人のいずれかの条件を満たす方（団体）で実施します。

### ○ 学校ビオトープの維持管理

流域内のビオトープを不定期訪問し、メンテナンスや管理のアドバイスをしています。2012年度もより多くの学校ビオトープを訪問し、本プロジェクトの理解者を増やすと共に出前授業の案内も行っていきます。ビオトープのメンテナンスは自主財源で運営しています。

### ○ 水郷トンボ公園の維持管理

1998年の開園以来、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会が単独でトンボ公園内の生物の生息環境に配慮した維持管理を行ってきました。今年度からはアサザ基金が中心とな

り、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会と連携してトンボ公園を管理していきます。開園作業（4/27）や田んぼの管理、公園巡回、閉園作業等を行います。

#### ○ 駅ビオトープの維持管理

JR常磐線高浜駅のビオトープは再造成を検討しています。石岡駅ビオトープは東日本大震災の影響で存続未定となっています。

#### ○ 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業

福島第一原発の事故により、環境中に放出された放射性物質が地表から、56本の流入河川へと入り、時間の経過とともに霞ヶ浦・北浦へ流入することが懸念されます。放射性物質はまだ、湖に流れ込む河川の底に堆積しているとみられます。私たちは市民団体や生協、行政等に協力を呼びかけて新しい公共の理念に基づき除染等の対策を進めるために政策提言や調査を行っていきます。

#### ○ 霞ヶ浦の再生に向けた政策提言

霞ヶ浦を再生するには社会システムの転換が必要です。私たちはアサザプロジェクトの実績と独創的な発想を活かした政策を立案し、各方面へ提案していきます。逆水門の柔軟運用や水位管理、放射能汚染対策など、霞ヶ浦北浦の環境再生に向けた実現可能な提案を市民団体や漁業者団体、農協などと協力して粘り強く進めていきます。アサザプロジェクトは独創的な取組を通して新たな現実を生み出し、出口のない制度論的循環論法からの脱却を促します。

### ● 環境教育事業

アサザプロジェクトにおける環境教育は、多様な課題を総合的に解決へと導くことが出来る創造的な人材の育成を目指しています。アサザ基金では1998年から霞ヶ浦流域で「出前授業」を始め、これまでに参加校は200を超えています。毎年1万人以上の子ども達が、環境学習に参加しています。今年度も霞ヶ浦流域を中心に、三重県や沖縄県、そして新たに滋賀県や京都市でも環境学習を展開する予定です。NECキャピタルソリューション（株）やシャープ（株）との協働による出前授業も継続して進めていきます。

#### ○ 霞ヶ浦流域内での環境学習

牛久市内の小中学校を除いた霞ヶ浦流域内の小中学校でも、総合学習の時間を活用して環境教育を進めています。2009年度から自主財源で活動を継続してきましたが、2012年度は「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」や「セブン-イレブンみどりの基金」から助成をいただけることになりました。実施校は選定中ですが、いくつかの学校にてビオトープを活用した環境学習や地域活性化につながるまちづくり授業も提案していきます。また、三井物産環境基金や霞ヶ浦ゆめ基金からも活動費用を捻出する予定です。

#### ○ 学校ビオトープから始まるまちづくり事業

（牛久市教育委員会との協働事業 2004年度から継続）

牛久市全域を環境保全、循環型社会へ向けた実物大モデルとして捉えた学習プログラムを展開しています。市内の全小中学校を対象に総合的な学習の時間を利用して実施します。「牛久市の自然特性の理解」「学区ごとの自然環境データの収集」を通して、「生物（他者）の視点にたった地域資源探し」を行います。自分のまちのどこが生物と共存していく

上で障害となっているのか、地域の資源を生かしてどう改善していけるのか、学習をとおして「あたらしい牛久のまち」を具体的に提案し、施策への反映を目指します。

現在、総合的な学習のあり方や社会参加の意欲を育てる学習のあり方が問われる中、子ども達の創造力・総合力を伸ばし教科学習と連動するプログラム作りが求められています。

2004年度からの活動実績が認められ、2009年度より牛久市の事業委託を受けています。今年度は事業委託料 935,550 円を講師派遣料等に充てていきます。

#### 事業計画

- (1) まちづくり学習プログラムの作成と実施
- (2) 学校支援を目的とした実行委員会の定期的開催
- (3) 地域への学習成果発表の実施
- (4) 事業前後の意識調査の実施、成果の公表
- (5) 学校での成果を活用し、より地域に波及する事業運営を行います

#### ○ 霞ヶ浦流域外での環境学習

・ 沖縄県宮古島では、環境保全と一体となった地域活性化事業「宮古島での未来のふるさとづくりプロジェクト」、沖縄本島宜野湾市では、宜野湾市立大山小学校での環境学習を軸に、田芋のコンテキストブランド化に取り組めます。原宿での「森の風プロジェクト」との連携も視野に入れた取組を展開します。

・ 宮川上流の過疎地、三重県大紀町の活性化と環境保全の一体化を目指す「お茶のブランド化」事業を、地元の七保小学校の総合学習を起点に、地域の担い手づくりを今年度も進めていきます。この取組はキャノンマーケティングジャパンのご支援をいただきます。

・ 今年度から滋賀県において地元の私立学校を中心に環境学習を展開する予定で準備を進めています。

・ 京都市ではハグロトンボをシンボルとした涼のネットワークづくりプロジェクトを地元の大学と連携しながら、小学校での環境学習を交えて展開する予定です。

#### ○ わくわく子どもの池プロジェクト

(NECキャピタルソリューション(株) 協働事業 2007年度から継続)

NECキャピタルソリューション(株)と協働で進めている「わくわく子どもの池プロジェクト」は、今年で5年目となります。支援を希望する小中学校にビオトープを造成し、アサザプロジェクトの学習プログラムを提供します。BT(子どもの池)が地域の人に関わる場、生きものが集まる場となり、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりを企業の社会貢献の一環として行います。環境保全にとどまらない、総合的な地域づくりを進めます。

#### 事業計画

- (1) 参加校：NECキャピタルソリューション(株)支店のある地域から、新たに4~6校が参加。
- (2) 学習基本カリキュラムは新規校対象に下記の5回を実施予定
  - ・ 生きものとお話しよう
  - ・ 学校の生きものとお話しよう/学校の周りの生きものの道を調べよう
  - ・ ぼくたちの考える生きものの道づくり(提案発表)
  - ・ 生きものの道を作ろう(ビオトープ造成または改修)
  - ・ 生きものの道を調べよう(事後調査)

○ 「シャープ（株）と気象キャスターネットワークとの協働による小学校環境教育」（2008年から継続）

シャープ株式会社、NPO法人気象キャスターネットワークとの協働による環境学習を、今年度も月1回のペースで全国で実施します。

● 水源地保全事業

- NECたんぼづくりプロジェクト with アサザ基金  
（IN 東田中 NEC CSR・環境推進部協働 2010年度から継続）  
（IN 上太田 NEC CSR・環境推進部協働 2004年度から継続）

「NECたんぼづくりプロジェクト with アサザ基金」は、石岡市と牛久市で実施している谷津田再生事業を通して、社員の環境意識啓発を目的とした水源地を汚染しない農業（酒米栽培等）体験で環境意識の向上を図ります。また、環境センサーを活かしたアプリケーション開発の実験フィールドとしても利用します。企業（社員啓発、新技術開発）、地元（地域振興）、NPO（水源地保全）とそれぞれの目的を達成することで、共通の目標「トキが舞う谷津田」の実現を目指します。

収支計画は、実施実績にもとづいた費用積算のため未定です

1. 業務内容

- （1）NEC社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- （2）プログラムの事前準備及び当日運営
- （3）谷津田の維持、管理
- （4）谷津田の再生を評価する為の調査
- （5）その他関連・付帯する業務

2. 事業計画

- ・東田中のたんぼでは4回の全体イベントと15回の達人コースを予定しています  
田植え（5/26）草取り（7/7）稲刈り（10/13）脱穀（11/3）
- ・上太田のたんぼでは5回の全体イベントと12回の達人コースを予定しています  
田植え（6/9）草取り（7/22）稲刈り（10/27）脱穀（11/10）復田（1/26）
- ・東田中、上太田の共同イベント  
仕込み神事イベント（1/13）新酒蔵出し（3/9）

○ 三井物産谷津田再生プロジェクト  
（三井物産株委託事業 2007年度から継続）

牛久沼の水源である谷津田の復元と再生を、社員の環境意識啓発事業という位置づけで行う「三井物産谷津田再生プロジェクト」として実施し、水源地を汚染しない農業（稲作等）体験で環境意識の向上をねらいます。また、谷津田でのプログラムを通して、生物多様性の保全に向けた取組みも行っていきます。

また東日本大震災で被災した茨城県内の復興支援のためのボランティア活動プログラムを、年間3回程を目標に行います。

1. 業務内容

- (1) 三井物産役職員およびその家族を対象とした米づくりを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) プログラムを実施する谷津田の借り上げ手配
- (3) 谷津田における基盤整備、米づくり、そのほか維持管理
- (4) 谷津田でつくる米を使用した酒醸造の委託手配
- (5) 個別プログラムの実施
- (6) そのほか上記各項目に関連する業務

## 2. 事業計画

田植え(5/26) 草取り 取り・ホタル観察 稲刈り 酒仕込み 新酒蔵出し

## 3. 収支計画は現在調整中です。

### ○ 損保ジャパン環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした循環型社会構築（通称：かっぱんだ）プロジェクト（2010年度から3年目）

損保ジャパン環境財団「CSOラーニング制度」から支援を受ける学生を対象に、事業企画運営の機会を提供することで、損保ジャパン環境財団が目指すビジョン「木を植える人を育てたい」達成を支援するものです。循環型社会構築にむけ、2010年度に再生した水源地（かっぱんだ）をフィールドとした地域との連携や新たなつながりの構築、収穫したもち米を使用した製品の商品開発、協働パートナーとWinWinの関係になるための企画作りを学生が主体的に行えるように支援していきます。

協賛金 821,370 円を下記の活動に充てる予定です。

#### 事業計画

- (1) 対象地 茨城県牛久市遠山
- (2) 事業内容 ・学生による企画作成、マーケティングの支援・調整  
・学生と協力して行う農作業イベントの準備・調整・運営支援  
田植え(5/26)、草取り(7月中旬)、稲刈り(9月下旬)、脱穀(10月)、収穫祭(2月)

### ○ UBS RICE Project UBS証券会社との協働事業 (UBS証券会社委託 2008年度から継続)

霞ヶ浦・北浦の水源地（谷津田）の荒廃はいまや、大きな社会問題になっています。霞ヶ浦・北浦の水質保全のためにも、霞ヶ浦・北浦流域の健全な生態系の維持のためにも、水源地の再生が急務の課題となっているなか、霞ヶ浦・北浦の水源地・谷津田をフィールドとして、無農薬での米作りを行い、環境と地域に貢献するRICE（Rural Investment in the Community and Environment）Projectを実施します。このプロジェクトは、水源地再生、生物多様性保全のみならず、地域や地場産業の活性化、環境教育の場の提供、地域人材の育成など、多方面への波及効果が期待できる価値創造型の取り組みになっています。業務委託費 6,510,000 円で、下記の事業を実施します。

#### 1. 業務内容

- (1) 棚田・谷津田の維持管理、生物調査
- (2) 子どもたちへの環境教育

- (3) 棚田・谷津田での米作り(田起し、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅づくり、日本酒醸造)
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) その他上記各事項に関連する業務

## 2. 事業計画

鹿嶋市山之上 田植え(5/13)、稲刈り、もちつき  
 潮来市清水 田植え(6/2)、草取り(7/21)、稲刈り、仕込み、蔵出し

### ○ 「UBSの森 霞ヶ浦水源の森づくり」UBS証券会社・牛久市との協働事業 (UBS証券会社の寄付による牛久市委託 2009年度から継続)

里山の再生は、霞ヶ浦流域の水源地の保全・再生を図る上で、重要な役割をもっています。水源地である谷津田の周りには林があり、林はその水源を涵養する機能を持っています。このような本来の里山づくりを行うことを目的に、牛久市において霞ヶ浦水源の森づくりを行います。この取り組みは、水源地の保全・再生、里山の原風景の再生、生物多様性保全、地域の活性化、環境教育の場の提供、地球温暖化防止など都市と農村をつなぐ新しい循環型のモデル事業となっています。

この事業はUBS証券会社が牛久市に寄付(ふるさと納税制度を利用)し、牛久市がアサザ基金に委託するかたちで実施されます。

業務委託費 330,000 円で、下記の事業をすすめます。

#### 1. 業務内容

- (1) 植栽維持管理
- (2) 植栽後植生・生物調査

#### 2. 事業計画

植生・生物調査 各1回  
 植栽維持管理 草刈り(全面1回、樹木回り2回)、施肥3回

### ○ UBS Bee プロジェクト (UBS証券会社の寄付による事業 2010年度から継続)

UBS証券会社の寄付により里山の再生を行っている「UBSの森」において、ニホンミツバチが広がっていく環境づくりを進めていくことで、UBSの森を拠点とする周辺地域を巻き込んだ生物多様性保全や森と人々との交流を創出します。さらに、ミツバチを通じて里山を再生するプロセスを都市における里山再生と共有することで、都市と農村に新たな結びつきを創り出します。寄付金 1,700,000 円を活用して、下記の事業を進めていきます。

#### 1. 事業計画

- (1) ミツバチの蜜源となる林床植物の植え付けなど、社員家族による里山の手入れを行うイベント実施
- (2) 植生/生物調査
- (3) ハチミツを使った里山スイーツの企画会議実施
- (4) 環境学習の場としてUBSの森を活用
- (5) 地域住民によるミツバチのモニタリング調査

### ○ ホギメディカル谷津田再生プロジェクト ホギメディカル・牛久市との協働事業 (株)ホギメディカル委託 2009年度から継続)

霞ヶ浦流域に広く分布する水源地「谷津田」の荒廃が大きな問題となっているなか、牛久

市のホギメディカル筑波工場に隣接する荒れてしまった谷津田を新たな価値を作り出しながら再生し、昔ながらの田んぼづくり、谷津田の管理を行っていく谷津田再生プロジェクトを実施します。水源地「谷津田」のシンボルの一つとなっているホタルを課題解決の指標として、健全な水循環の復活、地域文化の振興、牛久の原風景の保全、自然生態系の再生・保全に取り組んでいます。

## 1. 業務内容

- (1) ホギメディカルの役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) 谷津田における維持管理、基盤整備、生物調査、米作りの業務
- (3) 個別プログラムの実施
- (4) その他上記各事項に関連する業務

## 2. 事業計画

田植え・自然観察（5／19）、草取り・自然観察（7／28）、稲刈り・自然観察、地酒仕込み・自然観察、新酒蔵出し・自然観察

3. 収支計画は現在、契約手続きをすすめているため積算中です。

### ○ 霞ヶ浦・北浦の水源地となる里山の保全事業<1997年度から継続>

霞ヶ浦・北浦に良質な水を供給するために、荒廃した谷津田や周辺森林の保全に努めています。流域の環境NPOとの連携による森林ボランティア体験事業「一日きこり」を10月から翌3月まで月1回のペースで実施する予定です。

## ● 地域循環型社会構築に関わる事業

### ○ 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業

湖と漁業・農業・流通業・地場産業・住民をつなぎ、経済活動の中に環境保全の働きを組み込んだモデル事業として、アサザプロジェクトの魚粉事業は外来魚の水揚げが本格的に行なわれてからは満6年がたちました。（北浦・霞ヶ浦環境パートナーシップ市民事業が結成されてからは7年）

モノとお金の新しい流路が立ち上がり、湖がよるこぶ野菜たちも店頭ではすっかりおなじみの顔になりました。商品アイテムは周年栽培のキュウリを始め、多品目化を引き続き進めていきます。

## 1. 事業計画

昨年は福島原発事故後の放射能汚染の影響で外来魚の水揚げが中止となりました。当面はストックしてある魚粉を野菜の肥料として活用します。JA やさと・生産者とも協働で、湖が喜ぶ野菜たちのブランド化を進めていきます。

### ○ 「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」

キャノンマーケティングジャパン株式会社協働事業（2009年度から継続）

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、福祉作業所による生産への協力、廃食油のBDF化と

利用推進等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを昨年度から進めてきました。霞ヶ浦流域の再生活動によってできる様々な産品を組み合わせ、霞ヶ浦流域の再生活動によってできる様々な産品を組み合わせ、かりんとうづくりを進めていきます。2012年度は再生させた牛久市内の耕作放棄地でナタネを栽培、油をとり、小麦を栽培し、かりんとうを完成させていきます。この各段階に社員ボランティアが参加し、事業を進めていきます。

プロジェクト運営費とプログラム実施費として1,800,000円を支援いただきます。

## ○ 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 美浦工場が取り組む 花畑プロジェクトへの協力 (2011年度から継続)

日本テキサス・インスツルメンツ美浦工場では近接地にある耕作放棄地を再生し、霞ヶ浦の外来魚でできた魚粉を活用し、花畑を作り、その成果を活用して地域貢献・環境保全を行っていくプロジェクトを継続します。アサザ基金はその取り組みに賛同、協力します。

## ○ 「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」 日立化成工業株式会社協働事業 (2012年度からの新規の取り組み)

霞ヶ浦流域の自然再生、そして地域活性化を図る「しょうゆづくり」の取り組みをこの4月から開始します。江戸時代、霞ヶ浦と江戸を結ぶ舟運で栄えた土浦は、関東の醤油三大醸造地のひとつでした。筑波山周辺に広がる平地で大豆が栽培され、出来た醤油は霞ヶ浦、そして利根川を通り江戸に運ばれ、食卓を彩ったそうです。醤油づくりは霞ヶ浦流域を代表する伝統的産業です。醤油醸造は土浦市の柴沼醤油醸造さんに引き受けていただくこととなりました。

耕作放棄地を再生し大豆づくり、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、小中学校との協働によるしょうゆのブランド化授業の実施、福祉作業所による包装への協力等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めていきます。この各段階に社員ボランティアが参加し、事業を進めていきます。

プロジェクト管理運営費や醤油醸造委託費など10,955,000円を支援いただきます。

## ● 複数の事業にかかわる助成など

### ○ 「アサザプロジェクト～環境を機に活性化する地域社会」 (三井物産環境基金助成事業 助成期間：2009年10月～2012年9月)

#### 1. 事業計画

##### (1) “生きものと共生するまちづくり”学習プログラムの流域展開

牛久市だけでなく、流域へのまちづくり学習プログラムの展開に力を入れていきます。このために、流域ぐるみで子供たちの環境学習を支える体制作りも検討します。

##### (2) 地産地消による地場産業の活性化と循環型社会構築

外来魚粉に関しては、これまでの取引先だけでなく個人農家にも使用してもらえよう、弾力的な価格設定や使用しやすい商品開発を行っていく。「湖が喜ぶ野菜」「湖が喜ぶせんべい」「広がれアサザの夢」に関しては、商品の価値創造と小売り業者、消費者へのPRをより積極的に行います。

(3) “アサザ” “天然ウナギ” 復活に向けた政策提言と流域内の合意形成

流域の市町村のいくつかが柔軟運用の提案を賛成しています。反対している市町村は少ないですが、より積極的な説明を行い、弊基金の提言を正しく理解してもらおうと共に、流域の合意形成を進めていきます。放射能汚染対策と合わせて逆水門の柔軟な運用を実現するための取り組みを進めていきます。

上記の活動費用として助成金 4,500,000 円を充てます。

○ セブン-イレブンみどりの基金より「環境パートナーシップ協定助成金」  
(助成期間：2012年3月1日～2015年2月)

セブン-イレブンみどりの基金から、人件費と霞ヶ浦流域における環境学習事業へ年間 3,000,000 円の助成をいただきます。ネットワーク展開の基盤となる組織運営を充実させるとともに、資金に乏しい霞ヶ浦流域における環境学習を充実させることができます。

○ 東京電力株式会社社員受け入れ

東京電力株式会社社会貢献の一環として、派遣社員 1 名を平成 16 年度から受け入れていきます。今年度も継続します。

(主要内容)

派遣期間	平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日
勤務内容	・ 水源地保全の酒米づくり
	・ アサザなどの植生作業補助
	・ 雑木林の手入れ作業補助
	・ その他当法人の事業に付帯する一切の業務補助

○ インターン生の受け入れ

アサザプロジェクトは若者の人材育成に力を入れています。損保ジャパン環境財団 C S O ラーニング制度から今年も数名受け入れるとともに、東京環境工科専門学校の体験学習や他団体の受け入れに協力します。

● その他の事業

○ 水源地再生によるオリジナル地酒「広がれあさぎの夢」の流域ブランド化

今年度は、新たに愛友酒造<潮来>から「広がれあさぎの夢」が販売される予定です。水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、「広がれあさぎの夢」が3つの酒蔵（上記愛友酒造、白菊酒造<石岡>、田中酒造<取手>）で製造、カスミやジャスコ土浦で販売されています。今年度も引き続きブランド化を推進のためのテコ入れを行いながら、より多くの方々に購入していただける仕組みづくりも検討していきます。

○ 霞ヶ浦再生ブランド 「湖がよるこぶ煎餅プロジェクト」

水源地保全事業の酒米作りから出来た米粉の他、原料であるもち米も、谷津田での無農薬栽培によるものを使用して、霞ヶ浦のザザエビを用いた霞ヶ浦再生ブランド「湖がよるこぶ煎餅プロジェクト」を推進します。生産拡大に向けた福祉作業所との連携も引き続き行っていきます。さらに、アサザプロジェクトと協働中の他企業との連携おこなうことで、社会的にも付加価値の高い商品を目指します。

○ 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト（2009年度から継続）

原宿・表参道という大都市の中に、神宮の森から広がる風や生きものなどの自然の恵みを活かしたまちづくりを小学校や地元商店街の協力を得ながら進めていきます。前年度から原宿表参道にて開催してきた「風船ウォーク」「風船トーク」を定期的で開催し、大都市にある自然の気配に多くの人に気づいてもらえる場を作ります。

さらに今年度は、ファッション専門学校のゼミナールの学生と下記の事業を進めるとともに、沖縄県と連携した事業展開を目指します。

1. 事業計画

- (1) 原宿表参道にて「風船トーク」「風船ウォーク」イベントの企画・実施
- (2) 原宿表参道にて生物調査/聞き取り調査の実施
- (3) ファッション専門学校の学生と連携したブランドづくり
- (4) 沖縄における環境保全型農業による農作物のブランド化

○ 被災地復興支援につながる市民型公共事業の展開を予定しています。

○ オオヒシクイ米の販売

1997年からヒシクイ保護基金（代表 飯島博）が「自然保護の産直米」として始めた「オオヒシクイ米の販売」は、日本国内でも先駆的な取組として注目を集めてきました。この事業をこの秋からアサザ基金が収益事業の位置づけで開始します。

○ ホームページの運営

特定非営利活動法人サービスグラントの支援をうけながら、マーケティングのツールとしてホームページをリニューアルするプロジェクトを推進していきます。具体的には

- ・アサザ基金の事業とその価値について、様々な立場からの共感を得ることが出来、協力者や支援者の輪を広げられるサイトを構築すること
- ・アサザ基金の実績をまとめて分かりやすく伝えるとともに、その目指すところを支援者と共有すること
- ・アサザ基金の環境学習プログラムに参加する全国年間1万人の子ども達に、学習意欲の広がりや学習効果の広がりを生み出す仕組みを提供すること

○ 会報の発行

会報を年3回発行し、アサザプロジェクトの最新の活動を紹介していきます。会員や関係者に配布します。

○ 視察、講演の受け入れ

アサザプロジェクトの活動をより多くの方々に理解していただくために、出来る限り視察や講演等を受け入れていきます。希望される方はお気軽に事務局にお問い合わせ下さい。HP上の視察ガイドラインもご参照下さい。

○ 県内外各地の活動との連携

霞ヶ浦の環境保全や地域振興、放射能汚染問題などを潮来ジャランボプロジェクト実行委員会、鹿嶋市まちづくり市民センター、菜の花プロジェクト、霞ヶ浦元気シンポ実行委員会、霞ヶ浦の再生を考える会、常総生協、茨城農民連、霞ヶ浦生態系研究所など、流域内外の様々な団体と連携しながら問題解決に取り組んでいきます。